

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2025年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2025年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	見通しを持った主体的な行動を促すプログラム構成	日々のスケジュールや活動計画を事前に共有し、次段階の予測を可能にすることで自主性を養っている。また、週単位で継続的な集団活動を行うことで、一貫した経験を積み、成長を可視化しやすい環境を整えている。さらに、スモールステップの達成を適切に称賛し、次なる活動への意欲を高めている。	自己決定の機会を拡充し、責任感と主体性を育む活動を積極的に導入する。保護者との連携を深化させ、家庭でもサポートプランを共有・実践できる体制を構築する。また、定期的なフィードバックを強化し、利用者が自身の行動や学びを振り返る機会を充実させる。
2	視覚的・聴覚的刺激を抑制した療育環境の整備	パーテーションの活用等により個別の空間を確保し、視覚的な干渉を排除して集中力を向上させている。掲示物を最小限に留めることで情報の混乱を防ぎ、視覚支援(イラストや指示カード)を用いることで具体的な行動の理解を促している。これにより、不要な声掛けを減らし、集中を持続させる工夫をしている。	空間デザインのシンプルさを維持し、過剰な装飾を排した環境づくりを継続する。整理整頓を徹底するとともに、利用者自身が片付けの習慣を身につけられるよう支援する。また、指示カードは利用者のニーズや習熟度に応じて、適宜見直しと更新を行う。
3	社会性や協調性を育むために他事業所と合同で運動やレクリエーション活動を行っている	他事業所との合同運動やレクリエーションを通じ、新しい友人関係の構築や多様な価値観に触れる機会を設けている。チーム活動での協力や助け合いの実践、運動によるリフレッシュとストレス発散を促進し、心身の健康と社会性の向上を同時に図っている。	交流アクティビティをさらに多様化し、学びの選択肢を広げる。活動後に感情や学びを共有する「フィードバックセッション」を強化し、経験を内省して次に活かすプロセスを定着させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	空間的制約とレイアウトの工夫	限られたスペースで利用者の安全と動線を確保するために、什器の配置変更時間に時間を要し、業務効率や大規模な活動の展開に制約が生じている。	空間を多目的に活用できるレイアウトを検討し、収納方法の工夫により有効面積を最大化する。また、近隣の公園や体育館などの外部施設を積極的に活用し、活動内容に応じた柔軟な環境確保に努める。
2	高い利用ニーズへの対応と待機児童の解消	・利用満足度が高く退会者が少ない一方で、新規に支援を必要とする児童への速やかなサービス提供が困難な状況にある。	早期療育の重要性に関する周知活動を強化し、より低年齢層からの支援体制を整える。「個性を活かし、笑顔あふれる社会の実現」を目指し、一人ひとりが自己肯定感を高められる質の高い支援を継続します。
3	地域社会との連携深化	・地域の子ども向け事業や活動との接点が不足しており、コミュニティ内での交流機会が限られている。	地域の児童対象事業とのネットワークを構築し、定期的な交流や情報交換の場を設けることで、利用者が地域の中で共に育つ機会を創出する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	子ども支援室みらい 城南教室
------	----------------

公表日 2026年 3月 27日

利用児童数 2026年 3月 4日 回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3				思います	十分なスペースが確保されているとの評価を維持できるよう、今後も安全かつ活動しやすい室内レイアウトの維持に努めます。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3				思います	適切な配置であるとの信頼に応え、引き続き一人ひとりの特性に合わせた手厚い支援体制を継続してまいります。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3				子どもが次に何をすればいいかわかりやすい導線になっていると思います。	「次に何をすればいいかわかりやすい導線」とのご意見を励みに、今後も視覚的支援（絵カード等）や環境設定の工夫を継続し、お子様の自立を促します。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3				いつも清潔で明るいです。	「清潔で明るい」との評価を継続するため、毎日の清掃と消毒を徹底し、お子様が安心して過ごせる衛生的な環境を保持します。	
適切な 支援 の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3				否定せず根気よく対応していただいています。	引き続き個々の特性に寄り添った専門性の高い療育を提供できるように精進してまいります。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3				思います	公表している内容と実際の支援に齟齬がないよう、常にプログラムの質を点検し、透明性の高い運営を行います。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3				思います	保護者様のニーズを正確に把握し、客観的指標に基づいた最適な個別支援計画を今後も作成・更新してまいります。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3				思います	本人支援、家族支援、移行支援の3つの柱を軸に、お子様の成長段階に合わせた具体的な支援項目を適切に設定し続けます。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3				思います	作成した個別支援計画に基づき、日々の活動が目標達成に繋がっているかを常に評価・調整しながら支援を進めます。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3				成長に合わせてまた目的に合わせていろいろなプログラムを組んでいただいています。	「成長や目的に合わせて多様なプログラム」との評価を継続するため、新しい教材の導入や季節感のある活動を積極的に取り入れ、活動の固定化を防ぎます。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。		1	1	1			
保護 者 へ の 説	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3				ありました	契約・利用時の丁寧な説明を継続し、利用者負担や規程について不明点が生じないよう、常に分かりやすい情報提供を心がけます。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3				ありました	計画の提示と丁寧な説明を徹底し、支援の方向性について保護者様と常に一致した認識を持てるよう努めます。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3				専門家の先生のお話がとても参考になりました。	「専門家の話が参考になった」とのご意見を活かし、今後も保護者様のニーズに沿った勉強会や情報交換の場を定期的に企画いたします。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	3				思います	日々の送迎時や連絡帳を通じ、お子様の変化や成長を細やかに共有し、家庭と事業所が二人三脚で歩める体制を維持します。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2				1	行われています	定期面談の実施を徹底し、子育ての悩みや不安に寄り添った具体的な助言が行えるよう、相談しやすい雰囲気づくりに努めます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					温かく対応していただき（母子ともに）感謝しております	「温かく対応していただき感謝」というお言葉は職員の大きな励みです。今後も母子ともに安心していただける共感的・受容的な関わりを大切にします。

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2			1	あまり参加できていないのでできるだけ参加していきたい	「できるだけ参加したい」との前向きなご意見に対し、より参加しやすい日程調整や、きょうだいまも楽しめるイベントの企画を強化してまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3				されています	迅速かつ適切な対応体制を維持し、些細なことでも安心して相談できる窓口であることの説明・周知を継続します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3				思います	保護者様一人ひとりの状況に配慮した丁寧なコミュニケーションを継続し、確実な情報伝達を行います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3				連絡帳やLINEでの動画を楽しんでいます。	連絡帳やLINEによる動画配信への好評を受け、今後も活動の様子を視覚的に分かりやすく伝え、療育の可視化を推進します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3				思います	お預かりしている個人情報の取り扱いには引き続き細心の注意を払い、適切な管理を徹底いたします。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3				されています	マニュアルの定期的な見直しと、保護者様への確実な周知、訓練の実施を継続し、安全管理体制を堅持します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3				されています	お子様の安全を第一に考え、多様な災害を想定した実践的な避難訓練を定期的に行ないます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3				されています	安全確保を前提とした支援を徹底し、お子様が常に安全な環境で活動できるよう、リスクマネジメントを継続します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3				されています	万が一の事故や怪我の際は、事実関係の正確な把握と速やかな報告・説明を徹底し、誠実な対応を行います。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	3				おそらくそう思います	お子様が「ここは安心できる場所だ」と感じ続けられるよう、個々のペースを尊重した温かい迎え入れを継続します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2			1	本人の口から聞いたことがないのでわからない	事業所での楽しそうな表情や様子を動画や連絡帳でより具体的にお伝えし、安心感に繋がります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	3				とても満足しています。11月から年長で通うというイレギュラーにも対応して頂き感謝しております。いつもお世話になっております。今後ともよろしくお願いいたします。	今後お子様、ご家族に寄り添い、柔軟かつ質の高い支援を追求してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども支援室みらい 城南教室				公表日	2025年 3月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7				構造化はされているが、車椅子での利用には対応していません。ソフト面とハード面の両方から段階的にバリアフリー化を推進します。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7			検討し、より信頼性の高い事業所運営へと繋がります。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7					
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7					

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		個人のファイルに記録用紙をつけ誰でも共有しやすいようにしているところ。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		関係機関会議への積極的な参加に加え、緊急時だけでなく日常的な情報共有のルールを明確化し、多職種が連携してお子様を支える包括的な支援ネットワークを強化します。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		施設内に留まらない活動を通じて、お子様が社会の多様な人々と触れ合う機会を創出し、地域社会全体で育ちを支えるインクルージョンの取り組みを推進します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		地域住民に事業所の役割を正しく知っていただくことで、お子様たちが地域で温かく見守られる環境を作り、地域貢献の一翼を担う事業所を目指します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				